

LOCALS

横浜の人

横浜という土地で、ユニークな活動をしている人を紹介。

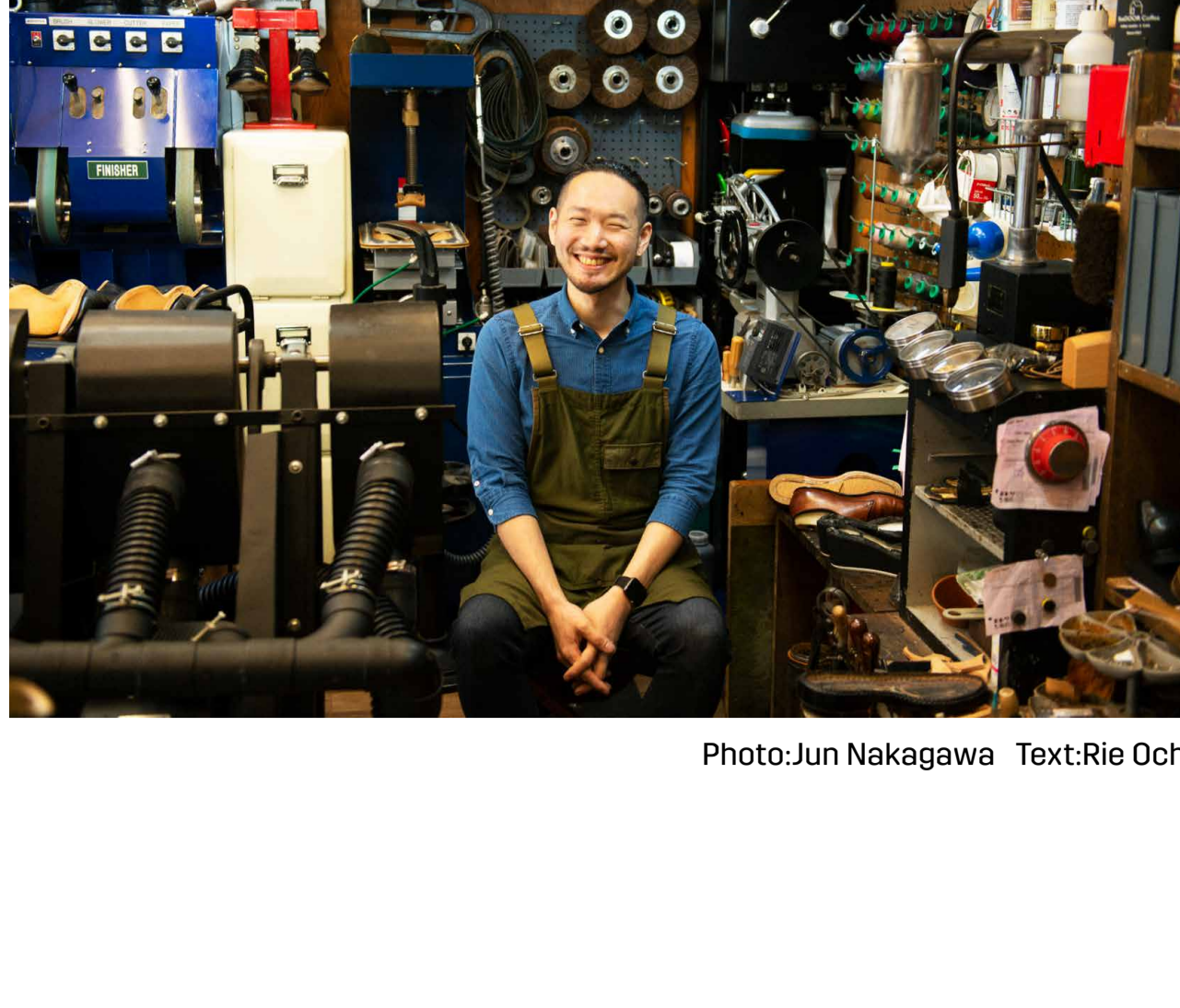


Photo:Jun Nakagawa Text:Rie Ochi

先代のスピリットを受け継ぎながら 新たな可能性を柔軟に模索する

Hudson Kutsuten Owner

RUI MURAKAMI

靴職人として培った技術で 細部にこだわった修理を

反町で1961年から続く横浜古参の靴修理店『ハドソン靴店』。レトロな佇まいが目を引く店を営んでいるのは2代目店主・村上壘さん。靴の専門学校在学中に、吉田茂元首相など著名人の靴作りを手がけてきた先代店主の佐藤正利さんと出会い、師事。浅草の靴メーカーで働いた後、2011年に『ハドソン靴店』を継いだものの、当初は順風満帆とはいかなかったそうだ。

「先代の時代は賑わっていた商店街も今は寂れて、最初はオーダーメイド靴をメインでやっていたもののお客さまは来ない。プライドを捨てて、自分がやりたいことよりも、まずはやるべきことをやろうと修理に本腰を入れました。僕は製造畑の靴職人なので、修理職人やチェーン店とは早さや価格で敵わない。そこで着目したのが、“修理を断られた靴”だったんです。



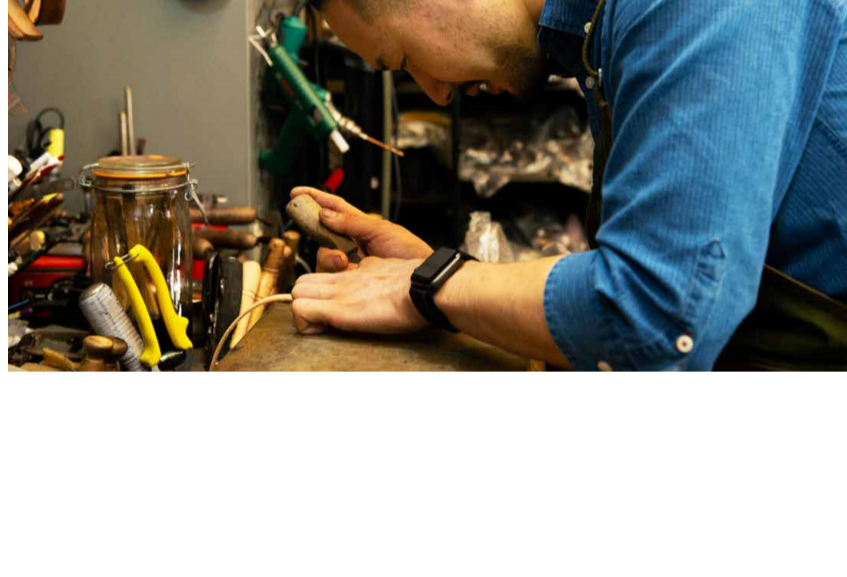
修理が難しいと断られた靴や、修理に失敗した靴など、一筋縄ではいかない修理を手がけるようになった村上さん。その出来栄は口コミで広がり、今では全国だけでなく、海外から依頼が来ることも。

「修理に対して疑心暗鬼になっているお客さまも多いので、接客には2、3時間かけることも。履けるように戻すことが大前提ですが、雰囲気壊さないことも大切です。革によって特徴も違うし、履き心地や好みも違う。お客さまがどうしたいのか意見を受け止めながら、ファッションの一部として捉え、再現しています。



自ら糸をよって松ヤニを塗り込み、手縫いをするなど、靴職人として培った技術を駆使して修理。見えないような細部にこそ、一つひとつこだわって作業する。

「最終的には出来上がった靴を見せた時に、良いか悪いか。細部について説明しなくても、他店とは違うと雰囲気の違いを捉えてもらえると嬉しいし、想像以上だと喜んでもらえるとやっていて良かったと思います。



時代の変化に合わせて新しい挑戦へ

今年で『ハドソン靴店』の2代目になって、10年を迎える村上さん。次の一步として、同じ反町にセミオーダー靴を扱う新店舗『HUDSONS』をオープンする予定だ。コンセプトは、“Post traditionalmodern”（ポスト・トラディショナルモダン）。

「機械化が進み、手製靴の世界は斜陽産業。靴職人の技術も絶滅寸前です。そんな中で、僕は昔の技術を使いながら、新しい技術を取り入れたことをやりたい。先代をはじめ、僕が学んできた職人は、『今を生きているお前が古い道具を使って、古いやり方に固執してどうするんだ』と言っていました。かつての手仕事は当時の最先端の技術。先代のスピリットを受け継ぎつつ、時代の変化に合わせて、新しいことをやらないと！



新たに生み出す靴はカーボン材をソールに使用。革靴でありながらスニーカーのように歩きやすく、フィットする靴が見つかる152サイズ展開という異例の試み。

「ここまで展開するのは、世界中の靴業界を見渡してもなかなかないと思います。お金もかかるし、大変ですけどね(笑)。今後は一緒に進んでいける仲間も増やしたいし、いずれは海外に行きたいという夢もある。10年の間に反町という街が好きになったので、ここを拠点に大きくしていければ。反町はこだわりやプライドを持っている個人店だけが続いていて、本物だけが残っている街。技術で勝負する店として、目指すべき指針があると感じます」



村上壘／横浜出身。靴の専門学校在学中に『ハドソン靴店』初代店主・佐藤正利に師事。浅草の靴メーカーなどを経て、2011年に『ハドソン靴店』2代目店主となる。11月に新店舗『HUDSONS』をオープン予定。

ハドソン靴店／神奈川県横浜市神奈川区松本町3-26-3／営業時間 10:00～20:00／定休日 火・水曜 ※完全予約制